



2016 年度  
認知症介護研究・研修  
東京センター  
年報

序にかえて

平成 28 年 10 月にセンター長を拝命しました。それまでは群馬大学で認知症の研究を 40 年近く続けてきた医師・研究者です。

認知症介護研究・研修東京センターは平成 28 年度が創設 16 年目で、これまで多くの認知症介護指導者を育成し、日本の認知症ケアの中心的役割を担ってきました。

さて、少子高齢化と人口減少の時代となり、長生きすれば認知症になることが当たり前の社会となりました。「認知症は一番なりたくない病気」、「認知症の人は困った人」といった社会の偏見を一掃すること、すなわち「ネガティブからポジティブへの転換」がセンター長の課題です。

当センターは、平成 28 年度は、地域包括ケアの流れに乗って、認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）を推進すべく、認知症地域支援推進員の育成や、認知症による行方不明の予防・対策などに力を入れました。また、認知症ケアを受ける多数の方の状態を 5 年間蓄積してビッグデータとして分析する「認知症ケアの標準化研究」（ケアレジストリー研究）を進めました。

1 年間の成果を集積した本報告書が、「認知症になっても笑顔で幸せに暮らせる社会」の実現に役立つことを願っています。



2017 年 5 月  
認知症介護研究・研修東京センター  
センター長 山口 晴 保

序にかえて …………… 3

## I 研究活動

1. 研究活動の概要 …………… 8
2. 2016年度の研究活動報告 …………… 9
  - 1) 厚生労働省老健事業認知症地域支援・ケア向上事業を活用した認知症の人やその家族への支援体制の推進に関する調査研究事業 …………… 9
  - 2) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構「平成28年度長寿・障害総合研究事業認知症研究開発事業」大規模症例集積による認知症、及びその前段階の各時期に対応した登録・追跡を行う研究（通称：オレンジレジストリ研究）分担研究：認知症ケアの標準化に関する研究（H28年度分） …………… 11
  - 3) 運営費研究 認知症地域支援推進員が地域課題に応じて効果的に活動を展開するための要素と評価に関する研究 …………… 13
  - 4) 運営費研究 非アルツハイマー型認知症の人のケアのあり方に関する研究 …………… 15
  - 5) 運営費研究 認知症の人の行方不明対策に関する海外の先駆的事例に関する調査研究事業 …………… 17
  - 6) 運営費研究 認知症地域資源連携・支援体制促進事業 …………… 19
  - 7) 運営費研究 認知症ケアレジストリ研究事業 …………… 21
  - 8) 全国労働者共済生活協同組合連合会社会福祉活動等助成事業（2015年度） 認知症の人の行方不明を防ぐ方策の普及推進事業 …………… 23
  - 9) 全国生活協同組合連合会社会福祉活動等助成事業（2015年度） ひもときシートを活用した効果的認知症ケア事例の収集分析事業―帰宅願望に焦点を当てて― …………… 25

---

## Ⅱ 研修活動

1. 研修活動の概要 …………… 28
2. 2016年度の研修活動報告 …………… 29
  - 1) 認知症介護指導者養成研修 …………… 29
  - 2) 認知症介護指導者フォローアップ研修 …………… 35
  - 3) 認知症地域支援推進員研修（都道府県等委託事業） …………… 39
  - 4) ひもときシートを活用したケアの気づきを学ぶ研修事業 …………… 43

## Ⅲ その他の活動

1. 東京センター研究成果報告会（認知症ケアセミナー「認知症の人がより良く生きる地域の実現に向けて」） …………… 48
2. 認知症介護研究・研修センター合同研究成果報告会（認知症介護セミナー「認知症にやさしい地域をつくるために」） …………… 49
3. 認知症介護情報ネットワーク（通称：DCnet）の活用状況 …………… 50

## Ⅳ スタッフ紹介 …………… 54

## Ⅴ 東京センター活動概要

1. 活動実績概要 …………… 64
2. 2016年度東京センター活動一覧 …………… 66